

令和2年度 第2回文京区地球温暖化対策地域推進協議会資料 意見要旨・対応

項目	意見・質問（要旨）	回答・対応
資料第1号	最近の動向ということでは、環境大臣が言明した「カーボンプライシング」も説明してほしい。	カーボンプライシングにつきましては、現段階で詳細が決定していないため、決定の際に資料への掲載を検討してまいります。
資料第1号	最近の動向については、専門的過ぎて、区民として理解できない内容であり、分かりやすく解説すべきである。	地球温暖化対策においては、近年、国際的な動向が目まぐるしく変化しております。資料には用語解説をつけ、できる限り平易な文章で記載するなど、今後も分かりやすい資料作成に努めてまいります。
資料第1号	・新型コロナウイルス感染症とエネルギー情勢から 人の往来がこれだけ制限されると、電力やガスなどのエネルギー消費がここまで変化するのかと改めて実感するとともに、都市ガスの商業用18%減少は減少率に驚きました。一方で、地球温暖化対策の視点からみると「中長期的に固定化・加速化される変化」の中にもあるように、デジタル化やリモート在宅勤務の進展が図られ、都市の一局集中が分散化されることも予想されます。脱炭素社会を実現しつつも循環経済や分散型社会への移行について、事業者も当然ながら変化が求められますが、事業転換の促進を図る助成・補助金の拡充など経済的支援の拡充も重要だと感じます。	今後も、新型コロナウイルス感染症とエネルギー情勢の動向について注視し、事業者に対する具体的な支援についても情報の提供に努めてまいります。
資料第1号	最近の動向が簡潔にまとめられていて、非常に参考になります。	今後とも、わかりやすい資料の作成に努めます。
資料第2号	文京区のクールアース都市ビジョン大変素敵だと思いました。 図1-2は別に1ページ取られたほうが、見やすかったかなとは思います。	次年度協議会での実績報告では、図の見やすさに工夫をしてまいります。
資料第2号	図1-1計画の方向性の3項の「気候変動への影響に適切に対応～」は、より端的に「気候変動への影響に適応～」とした方が分かりやすい。	計画の方向性につきましては、改定の際にパブリックコメントや協議会等で協議した上で計画書に記載しているため、現段階で変更の予定はありません。
資料第2号	区のCO2削減目標2030年28%減が、国の目標とする2050年排出量の正味ゼロにどう結びつくのか、図2-1のロードマップを補完する意味で、区の考える時系列の排出グラフ（排出シナリオ）を追加してほしい。	区の削減目標は、これまでの区内温室効果ガス排出量の推移や将来の推移予想によって2030年度における数値として算出しています。他方、国では2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、国の「地球温暖化対策計画」の見直しを行うことから、その内容が明らかになった段階で必要に応じてご指摘の点を検討してまいります。
資料第2号	分野5気候変動の影響への適応 現実的には、今後最も重要となる分野と考えるのでより充実してほしい。各種対策を効率よく進めるため、「5-5気候変動の地域的影響評価」を新設し、大学等と連携して区内の影響評価法を検討する旨記載することを提案する。	行動計画（アクションプラン）の施策体系につきましては、改定の際にパブリックコメントや協議会等で協議した上で計画に示しているため、現段階で変更の予定はありませんが、気候変動の影響への適応につきましては、行動計画（アクションプラン）に記載した事項について着実に取り組んでまいります。

資料第2号	計画目標が明確であれば実績は数値で表現できるはずであるとする。実績報告は計画に対してどれだけ達成できたかという内容でよい。	計画で定めた目標（CO2削減目標）値や進捗管理指標については、毎年度数値を確認し、達成状況を把握してまいります。
資料第2号	各分野での「令和2年度の主な取組内容」で主要な具体的なトピックスを記載するのはとても分かりやすいと感じます。完成がとても楽しみであります。実績報告資料完成発表後、具体的な取組の実践例をインターネットを通じて情報発信。区内の事業者や区民の皆様に周知していくことも重要かと感じます。	改定計画の実績報告資料については、協議会に提示した上で、区ホームページに掲載し、事業者や区民等に周知してまいります。
資料第2号	分野3-2 低炭素建築物とありますが、わかりません。注釈が必要ではないか。	今回の資料は計画からの抜粋のため、注釈はありませんが、今後の資料作成の際には用語解説等について検討してまいります。 なお、「低炭素建築物」というのは、建築物における生活や活動に伴って発生する二酸化炭素を抑制するための低炭素化に資する措置が講じられている建築物（参考：国土交通省ホームページ）を指します。
資料第2号	二酸化炭素排出量の削減目標は、2030年度までに東京都は既存目標の確実な達成に加えて新たな目標を設定し、重点的に取り組むようにしており、2050年のゼロカーボンには、2030年度までの取り組みが非常に重要であるとの認識で東京都は取り組んでいますが、文京区の目標には、その意気込みが全く感じられないのは残念です。また、アクションプランの主な取り組みやアンケート結果が、省略されているので、評価できませんのも残念です。	区においても、将来的な脱炭素社会を目指すこととしており、計画に設定した目標達成に向けて、着実に取組を推進してまいります。 また、今回の資料は改定計画の実績報告資料のイメージとして作成したものであるため、次年度作成する資料には、アンケート結果について記載いたします。
資料第3号	電力小売、ガス小売自由化に伴い、データ把握が困難となり、見直し案として、区民アンケートによる消費量把握をデータ根拠のひとつとして採用することは、新たなアイデアだと思いますし、データのタイムラグが是正され、効果的です。	今後もエネルギー実績値の提供について国の動向は注視しつつ、代替案における推計を検討してまいります。
資料第3号	了解する。しかし、直近年度のエネルギー消費量という基本的な指標が入手できない場合の代替手法は、横並び比較や集計の観点からも、全自治体共通であることが望ましい。区独自ではなく、国や都レベルで統一の方法論を検討するよう働きかけてはいかがか。	エネルギー消費量の指標設定は、国のマニュアルで定められていないため、各自治体により指標として設定するかどうかは異なることから、区で検討することとしております。
資料第3号	なぜ代替案を出さなければならないのかが十分説明されていない。これは根幹にかかわる話であり、文京区内で議論すべきものではないのではないかと考える。	代替案検討の経緯については、資料第3号の冒頭に記載している通りです。 なお、エネルギー消費量の指標は、前計画において代表指標として設定していることや、各自治体により指標として設定するかどうかは異なることから、区で検討することとしております。
資料第3号	民生（家庭）部門でのデータを区民アンケートに基づくものから把握することはとても良いことだと思います。賛成です。実態とほぼ近い消費量が推計され、タイムラグも少ないです。反対に、家計調査報告の区民版のような、こうした経済的基礎データを毎月協力提出いただけるモニターを事前に募集したり、アンケートもスマートフォンで送信できたりするなどのシステムを区が取りまとめる各委員会で横断的に利用できるように構築。あらゆる分野の区民アンケートが同一システムで利用できるようになれば、きわめて有効に活用できるのではないかと感じました。	現状は提示した方法で、エネルギー消費量を把握していくことを想定しておりますが、アンケートの調査方法につきましては、今後検討してまいります。
資料第3号	オール東京のデータは、3年遅れで今後とも十分な評価が出来るのでしょうか？他も2年遅れの不確実なデータのようなのですが、東電・東ガスの協力を得て、前年度の文京区の電気使用量を上手く把握できる仕組みを検討して頂きたいと希望します。	直近のエネルギー消費量については、代替案を検討しつつ、引き続き国等の動向に注視してまいります。

資料第4号	クールネット東京で行っている再エネ活用やZEV等の助成金制度について、区で行われる周知や広報活動に更なる連携を図らせていただき、積極的に助成制度を活用する都民や事業者を増やし、温暖化防止対策の推進を図って参りたいと考えております。	引き続き東京都と情報共有や区民への情報提供等の連携を図りながら、温暖化防止対策を推進してまいります。
資料第4号	二酸化炭素排出量の削減目標について「困難な見込み」と評価したのは区民に対して誠実である。この結果を踏まえ、2020年度からの行動計画をどう推進するかを資料第2号の冒頭の計画概要に盛り込むことを提案する。	資料第2号の冒頭の計画概要には、文京区地球温暖化対策地域推進計画「第3章 計画の枠組み」の概要を記載しています。行動計画については、資料第4号に記載しております。
資料第4号	表1および表2では、区の2017年度エネルギー消費量は2005年度比20.7%減なのに、CO2排出量は3.2%減にとどまっている。この間、エネルギー消費量当たりのCO2排出量が増加していることになるが、電源構成の変化なのか、あるいは都や区に特徴的なエネルギー消費構造があるのか、補足的な説明があると理解が深まる。	本計画では二酸化炭素排出量の算定において、2012年度以降は2011年度の排出係数で固定して算出するため、CO2排出量は数パーセントの減にとどまっておりますが、2005年度の排出係数に固定した場合は、16.1%減となることが資料に記載されております（参考資料1 P5）。なお、エネルギー構成（ガスや電気等の内訳）の変化により、差異が生じていることが想定されます。
資料第4号	資料第4号について、表現が十分でない点がある。 ・2ページ1行目「エネルギー消費量は基準年度と比較すると削減できており、一定の効率化は進んでいるが、目標達成は困難な見込みである。」→一定の効率化が進んでいるのに達成が困難と断定する理由が不明。 ・3ページ 代表指標は全国共通ではないのか。それがあいまいであってよいのか疑問である。 ・3ページ アクションプラン取組状況を見ると、区民一人当たりの目標を提示しないと区民は何をどれだけ対応すればよいのかが見えないのではないのか。	・基準年度より効率化が図られていますが、特に民生（業務）部門では参考線を上回って推移していることもあり、近年の傾向から達成は困難な見込みと考えております。 ・指標は全国共通のものではありません。区では資料第3号に記載のとおり、指標の代替案の検討を進めております。 ・民生（家庭）部門のCO2排出量は世帯を単位として計算しているため、世帯での削減目標を提示しております。
資料第4号	1.3 アクションプラン取り組み状況 ・「わが家の省エネチャレンジ事業」のように、エネルギー使用量を把握し、自らの取組により効果を実感することができる区民参加型の事業を推進していく。 上記大賛成です。どの分野でどのように行動したかの発表を細かく丁寧に行うことで、他の区民にも共感いただくことが大切に感じるとともに、実施参加した区民や省エネ達成が極めて優秀だった区民を表彰したり、その表彰模様をマスコミ・SNSで公開するなど、周知活用を強化することも大切かと思えます。取り組みの背中を押すためには表彰対象者には省エネ家電の買い替え支援（購入支援）を実施するなど、金銭メリットがあっても良いかと感じました。	今年度は、わが家の省エネチャレンジ事業について、参加者がより参加しやすいように実施方法を変更しました。今後も、より一層の普及啓発が図られるよう検討してまいります。
資料第4号	P3のPPAという言葉は分からない。注釈が必要ではないか。	資料第1号のP13に注釈を記載していたため、資料第4号には記載していません。

資料第4号	<p>1.1 「目標について」；「省エネ・高効率機器の導入促進に加え、新たな生活様式における省エネルギー行動メニューを整理して、改めて日常生活での取り組みなどの情報発信することを検討していく」とありますが、省エネ・高効率機器については、文京区のこれまでの導入実績と今後の導入目標を数値的に示して欲しい。また、省エネルギー行動メニューの一覧表を示して欲しい。</p> <p>1.2 「代表指標について」；エネルギー使用量の指標について、入手の可能性を検討して欲しい。「アクションプラン実施状況に把握」；「環境ライフサポーター」の具体的活用方法を検討して欲しい。これまで定められている「改定計画で設定した進行管理指標」は、はなはだ定性的で曖昧の指標が多い様の思われる。もっと具体的で定量的な管理指標に変更して欲しい。そうすることで、アクションプランの進捗状況の把握が具体的定量的になるものと期待して居る。</p> <p>1.3 「アクションプランの取り組み状況について」；「再生可能エネルギー設備の導入」の実施率が継続して低いのは、具体的に文京区の導入実績を定量的に示して、導入実績の高い区との比較など具体的な数値で示して区民に実情を理解出来るようにすると同時に、導入の補助制度などを同時に示すなど改善するポイントがある様の思われます。</p> <p>また、ビーグルの自動車を、どこの区か忘れてましたが、燃料電池自動車に変えていたと思いましたが、文京区民に脱炭素化を積極的に知らせるためにも、自動車の脱炭素化を積極的に進めて頂きたいと希望します。ここに文京区の予算を積極的に投入することで、文京区の脱炭素化の本気度が区民に良く伝わる非常に良い事例であると思われます。</p>	<p><b>1 省エネ・高効率機器の導入実績は把握していませんが、再生可能エネルギー設備導入量については把握しており、協議会資料でもお示しております。また、省エネルギー行動メニューについては、本計画や概要版に提示しております。</b></p> <p><b>2 進行管理指標は、改定の際にパブリックコメントや協議会等で協議した上で計画に定めたものなので、現時点で変更の予定はありません。</b></p> <p><b>3 自動車の脱炭素化については、都のZEV普及プログラム等の方針を注視しながら、都における各種補助制度の周知等に努めてまいります。</b></p>
資料第4号	<p>前計画の課題を踏まえた今後の方向性が示されているが、エネルギー消費量が継続的に減少している一方で、電力の排出係数の影響を受けて二酸化炭素排出量の削減は十分進んでおらず、2019年度の目標達成は困難な状況となっている。東京都の例を見ても同様の傾向が見られるが、都では2030年に向けた目標として、排出削減目標にくわえてエネルギー消費量に関する目標を併せて掲げている。これは、排出係数による影響を排除し、自己努力と外部要因とを切り分けて管理できるようにする工夫でもある。文京区においても、2030年までの削減目標にくわえ、今後の省エネ目標を別途設定することも検討すべきではないか。</p>	<p><b>削減目標については、まずは計画で定めた目標値に向けて着実に取組を推進することが重要と考えており、今後国や都の動向を踏まえながら、必要に応じて見直しを検討してまいります。</b></p>
進捗管理方法等全般	<p>1 推進計画に基づいた進捗の状況を速やかに区民に周知する。また合わせて、地球温暖化対策の数値を情報提供する。</p> <p>例として、温室効果ガス総排出量の速報値や確報値は環境省、東京都から発表後に区報で周知する。同様にゼロエミッション東京とか気候変動における動向・情勢をタイムリーに周知することも必要。</p> <p>2 「高い環境意識」を育てるための働きかけ</p> <p>現在、SDGs達成に向けても「次世代にいい環境を残す」持続可能な社会を目指すことが求められています。子供の頃から環境について学ぶ機会を与えることが、行政としても必要ではと思います。小学生を対象とした環境教育を用意したらと考えます。</p> <p>例として①夏休み親子環境学習セミナーの企画・実施 ②夏のラジオ体操実施中に、1日1問の環境問題クイズ等を行い、遊びながら環境について学べる機会を与える。</p>	<p><b>1 推進計画の進捗状況等は、協議会に提示した上で速やかに区ホームページに掲載します。</b></p> <p><b>2 区立小学校の児童に計画の「子ども向け概要版」を配付することや、小学生と保護者を対象とした「親子環境教室」の開催等により、子どもの頃から環境について学ぶ機会を提供しております。</b></p>

全般	<p>2050年脱炭素社会実現に向けた潮流は、国・東京都主導のもと一層加速しており、文京区においても、2030年の二酸化炭素排出量の削減目標達成のためには、特に、民生家庭部門における二酸化炭素排出量の削減が重要課題と考えます。そのためには、区内のエネルギー消費量把握を踏まえ、目標達成のための、よりきめ細かい管理が重要と考えます。さらに、施策推進のためには、地球環境問題に関する、区民の方々の一層のご理解が重要です。区民に対して、達成状況を踏まえた、情報発信、より具体的な行動指針を提示、理解頂くことが、一層の成果拡大に繋がると考えます。</p>	<p>引き続き、地球温暖化への取組に関する情報発信やアクションプランを区民等へ提示し、理解を促進することで、区民・団体、事業者、区が共通の目標に向かって、連携・協働しながら取組を進めることができるよう努めてまいります。</p>
全般	<p>全体に多くの資料を団体から集めてコピーしているのですが、学者とか専門家には分かるだろうが一般の人には難解だと思われそうです。もっと一般の人にわかりやすくしたらどうかとも思いますが、もともと難しい案件なので仕方ないかもしれません。</p>	<p>地球温暖化対策においては、近年、国際的にも動向が目まぐるしく変化しております。資料には用語解説をつけ、できる限り平易な文章で記載するなど、今後も分かりやすい資料作成に努めてまいります。</p>
全般	<p>COPでは、各国がパリ協定の下で提出したNDC(国別削減目標)を引き上げることが呼びかけられており、日本も菅首相がCOP26(2021年11月)までに従来のNDC(2030年に13年比で26%減)を見直して再提出することに言及した。仮に日本のNDCが引き上げられた場合、非国家アクター(自治体、企業など)にも目標を見直す動きが広がっていくことが予想される。従来であれば、区として現行の計画期間の途中で目標を見直すことは考えにくいことであったが、脱炭素社会の実現に向けた世界の潮流が加速している現状に鑑みると、計画期間の途中であっても目標や取り組みを適当なタイミングで見直すことが不可避の状況となっている。政府のNDC再提出を見てから議論を開始するよりも、今の段階から目標引き上げに向けた議論の準備をしておくべきと考える。</p>	<p>現在国では2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、国の「地球温暖化対策計画」の見直しを行うことから、その内容が明らかになった段階で必要に応じてご指摘の点を検討してまいります。</p>
その他	<p>書面開催になった理由について説明すべき。オンラインで開催すべきである。</p>	<p>全委員がリモート会議を行える環境にあるとは言えない中で、書面会議を開催いたしました。今後状況に応じて、リモート会議の実施については検討してまいります。</p>
その他	<p>区民へわかりやすく説明し、理解してもらう努力が不足していることが目標達成できない最大の理由だと考える。一般区民にすれば難しすぎる。また、補助予算、人員を十分確保していないので、対応が後手になり、区民は取り組むメリットを感じていないのではないかと。</p>	<p>地球温暖化対策においては、近年、国際的な動向が目まぐるしく変化しております。環境教育や各種広報媒体等により、出来る限りわかりやすい周知を行うことで、さらなる意識の向上を図ってまいります。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料については、賛同致します。</li> <li>・安全に、協議会がリアルに開催出来たら更に良いと思います。</li> <li>・2月より、個人活動として”クラブハウス”での環境活動も開始致しました。全国の、世界の環境活動家ともつながって「地球温暖化対策」を考え、実行出来るよう努めます。</li> <li>・文京区環境ライフサポーター活動の充実</li> </ul> <p>若い方、新しい方々ともコラボして、次世代の子ども達へ、文京区の豊かな自然環境を守り、バトンを渡せたら！と思い、少しずつ安全第一で活動しております。</p>	<p>協議会の開催方法については、今後状況に応じて検討してまいります。また、今後とも環境教室の開催等により、次世代への意識啓発を推進してまいります。</p>